

デーリー東北
2022年(令和4年)8月2日(火曜日) (16)

民謡、ジャズ異色コラボ

八戸工業大大学院 小坂谷教授開発 三味線の自動採譜活用

八戸 三味線の演奏を自動で譜面に起こす「自動採譜装置」の研究に取り組む八戸工業大大学院の小坂谷壽一教授は7月28日、民謡音源から採譜した西洋譜を
活用し、民謡歌手とジャズの演奏家が初共演する特別公開授業を同大で開催した。受講した学生ら約100人が異色のコラボレーションによる音の化学反応を楽しんだ。(藤村大地)

松田さん、マッシュューズさん
特別公開授業で初共演



民謡とジャズのコラボレーションを披露したデビッド・マッシュューズさん(右)と松田隆行さん(中央)

小坂谷教授は口伝が中心だった三味線の演奏を譜面として残すために装置を開発。専用の三味線を弾くことで、自動的に三味線譜と西洋譜に譜面化できるようにした。民謡人口の拡大や継承者の育成などが期待されるという。西洋譜面にするにより、ピアノなどほかの楽器での演奏も可能となり、今回のコラボが実現した。
八戸市出身の津軽三味線演奏家で民謡歌手の松田隆行さんと、かつて同市を活動拠点としていたジャズピアニストのデビッド・マッシュューズさんが共演。「鯉ヶ沢甚句」「田名部おしまこ」の2曲を披露し、軽快なリズムと重厚な歌声で会場を包み込んだ。
小坂谷教授は「聞き慣れた民謡も、新鮮で別な曲のように聞こえた。ほかの楽曲も西洋譜によりジャズ化することで、改めて見直されるのではないか」と話した。

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。